

ダイアリー 14.04.2006

やあ！僕の暮らしをダイアリーにアップデートするのにとんでもなく長い時間がかかってしまって、先ず本当にごめんね。でも、そう、とうとう更新したよ。

たしか最後にダイアリーを書いたのは（もう大昔だよ！）、ちょうどオペラハウスで「兵士の物語」を再演中で、「危険」のロンドン公演を始めるところだったと思う。だからそこから話を始めるね。

僕らは「危険」ロンドン公演のリハーサルを開始した。幸い日本公演の時のキャストがほとんどいてくれたので助かったよ。教えなきゃいけない新メンバーも何人かいた。トゥールヴェルとセシル役のシモン・ソルトと、ダンスニー役のマイケル・コピンスキー。彼らをカンパニーのメンバーに迎えられて良かったよ。役にびったりだし、一緒にやるとても楽しかった。リハーサル期間は3週間、だと思っけど、とても上手くいった。明らかに日本バージョンから変更したい点がいくつかあったんだ。作品に立ち戻って再演しなきゃならない時は、常に改善したいと思う。完璧なものなんて無いからね。やるべき事は常にあるんだ。で、あちこち改良を加えて、日本の時よりもっと良くしようと取り組んだ。そうやってリハーサルを始めたんだ。

リハーサル期間中、運悪くロンドンで爆破事件があったのはショックだった。最初は僕らのリハーサル場所の最寄駅が攻撃されたと聞いたんだ。カンパニーのメンバーが大勢その駅を使っていることを知っていたから、大パニックだったよ。でもこれは誤報で、全員無事だった。ほんとに良かったよ。次に僕らは劇場に移り、テクニクの方を始めた。ところが今や開幕という時に、またしても運悪く爆発物警報が出たんだ。実際爆発はなかったけれど、ロンドンとイングランド南西部全域が震え上がって、観客の出足も僕らが望んだほどには伸びなかった。だけど初日とそれに続く2週間半の公演中、客足はとても良かったんだよ。

サドラーズ・ウェルズでの公演は素晴らしかった。過去2年僕が公演した時も、サドラーズはいつも僕ら、というか僕の、面倒をほんとはよく見てくれて、とても楽しかったんだ。有名人も大勢僕らを観にロンドンまで来てくれたし、日本や世界中からも大勢の友達が観に来てくれて、素晴らしかった。はるばる来てくれたみんな、どうもありがとう。嬉しくて、ほんとに楽しかったよ。舞台評は中くらい、まあまあってところ。面白いよね。公演を観に来た演劇界の連中はみんな、作品自体を断然気に入ってくれたと思うんだ。残念ながら舞台評を書いたダンス批評家はそれほど熱心じゃなかったけれど、彼らのために公演しているわけじゃないしね。僕らは観客のために公演しているんだし、観客は本当に楽しんでくれているようだったから。それにロコミで観たがっている人達がいるそうだから、イギリス、ヨーロッパ、それに世界中で、続けて公演していきたいと今は願ってる。目下2007年以降のツ

アープランをまとめようとしているところなんだ。ワクワクするよ。早く実現できるといいな！

こうして「危険」が終わり、数週間のオフを取って、麗しの妻サラと僕は、ある劇で共演する準備を始めたんだ。僕らが行き組んだのは「ウォール・フラワリング」という二人芝居。ちょっと怖かったよ。舞台に上がるのは僕たち二人だけで、時間も2時間とかなり長尺だから、覚えなきゃいけないセリフがたくさんあって、僕は完全にパニック状態！サラは僕よりずっとセリフの暗記になれているから、手伝ってくれた。上演したのはセヴンオークス・プレイハウスというロンドン南西部にあるきれいな劇場。その中のスタジオ・シアターという小さなスペースなんだけど、まるでダンスホールのような感じで劇にぴったりだった。芝居は郊外に住むオーストラリア人夫婦の話で、大方の男女関係がそうであるように、彼らの結婚生活も山あり谷あり。けれど二人とも社交ダンスが大好きで、それが彼らを結びつけている。そこで僕らは社交ダンスを6つか7つ考えなければいけなかったんだけど、各ダンスの長さはたった30秒か1分で、残りは全部セリフなんだ。監督が素晴らしかった。ジュリアン・ウルフオードと言って、セヴンオークス・プレイハウスの芸術監督でもあるんだ。この劇は彼のアイディアで、サラと僕に出演依頼が来た時は大興奮したよ。僕らの演技を磨くチャンスだったし、最高に素晴らしい経験だった！僕にとっては新天地なので、二人で行き組んだ中で一番大変ではあったけれどね。なにしろ僕にとっては初めての芝居で、サラにとっては2度目。あんなに大量のセリフを覚えて、舞台には僕ら二人だけ。それに言ったようにとても小さいスペースの中で演じるから、観客との距離が信じられないほど近くて、僕らは観客に取り囲まれている状態。それに多くは観客に向かって芝居をするから、まるで観客と会話しているようなんだ。だからとても怖くて、慣れるのにしばらくかかった。けれど二人とも断然気に入って、大いに楽しんだよ。3週間か4週間断続的に公演している間、はるばる日本から二人もセヴンオークスまで観に来てくれて最高だった。イギリス中からも様々な人たちが観に来てくれて、僕らを支持してくれたしね。本当にありがとう。素晴らしい経験だったから、僕らはもう一度上演したいと思ってる。そうすればもっと広くみんなに観てもらえて、いいと思うんだ。

「ウォール・フラワリング」の後、ほぼ間髪を置かず次に着手したのは、シェフィールドにあるクルーシブル・シアターでのミュージカル「プロミセス、プロミセス」の振付。「プロミセス、プロミセス」は、1960年代シャーリー・マクレーンとジャック・レモン主演の映画「アパートの鍵貸します」を元に、バート・バカラックが書いたミュージカル。最高の作品で、素晴らしいショーなんだ。バート・バカラックの音楽は60年代っぽくて楽しいし、作者のニール・サイモンは映画の脚色も担当したから、とてもおかしくて、ウィットに富んだいい作品なんだよ。僕は監督のアンガス・ジャクソンとデザイナーのロバート・イネスホプキンスと一緒に、5週間半か6週間かけてまとめ上げた。ロバートは少し前にサドラーズ・ウェルズで上演した「雨に唄えば」でもデザインを担当してくれたんだ。それに何人かの友達とも会えた。僕の振付を手伝ってくれ、助手もしてくれて、おまけに舞台にも出演したヘレン・ディクソン。「危険」に出演したバーナビ・イングラム。「オン・ユ

ア・トウズ」で一緒に仕事をしたジュリア・ヒンチクリフ。同じく「オン・ユア・トウズ」の共演者ユアン・ウォードロップ。ユアンとはもう数年来の知り合いなんだ。マシュー・ボーンのカンパニー アドヴェンチャーズ・イン・モーション・ピクチャーズの「白鳥の湖」や「シンデレラ」でも共演したので、彼がいてくれてとても嬉しかった。全体として興味深い経験だったよ。微妙な時期でもあったんだけど、作品の仕上がりは上々だったし、舞台評も好評で、みんなかなり喜んでる様子だった。その間約 6 週間か 7 週間、僕は家を離れていただけだけど、こういう種類の仕事をする上で一番辛いのは、家を離れてサラや何もかもから引き離されていることなんだ。でも何とか毎週末家に帰れるようにしたよ。電話代もたくさん使ったしね！だけど友達がいたし、新しい友人もできて良かったよ。主演のリチャード・フレームとはいい友達になった。本当にいい奴で、舞台では素晴らしいんだ。サラ・イングラムやジャック・チジック、それに他の仲間ともシェフィールドでよくたむろしたよ。本当にいいカンパニーだった。すごく感じがいいんだ。

クリスマスは新居で過ごした。サラと僕は昨年ロンドンから引っ越したんだよ。当時僕らはサドラーズ・ウェルズで「危険」をやっている、ロンドン南部のハンプシャー州の田舎に引っ越したんだ。ロンドンまで約 1 時間半かかるけど、素晴らしい所だから少し余分に時間をかける価値はあるんだよ！僕らはいつも田舎に住みたいと思っていたし、手に入れた家は最高。美しい庭があって、都会の雑踏を離れ、新鮮な空気とよりリラックスしたライフスタイルで暮らせるのは素晴らしいんだ。オフの時間は、煙っぽいロンドンよりもこんな雰囲気の中で過ごすのがいいよね。家族と新居で素晴らしいクリスマスを祝って、次が「ガイズ・アンド・ドールズ」。

1 月シェフィールドでの「プロミセス、プロミセス」公演直後、僕は「ガイズ・アンド・ドールズ」のオーディションを受けるよう言われたんだ。「ガイズ・アンド・ドールズ」の製作は「グランド・ホテル」で一緒に仕事をしたマイケル・グランデージ。デザインも同じく「グランド・ホテル」のデザイン担当クリス・オーラム。音楽監督のジェイ・アレクサンダーも「グランド・ホテル」の音楽監督。だからまるで「グランド・ホテル」チームみたいなんだ。アメリカ人振付家ロブ・アッシュフォードがマイケルのために振付した。素晴らしい出来だよ。僕は、今僕が演じている役をマイケル・ハーマンがやっている時、この作品を観たんだ。マイケル・ハーマンを知らない人のために言うけど、彼はイギリスの連続ドラマ「イースト・エンダーズ」に出演して、今大人気なんだ。同じく連続ドラマ「コロネーション・ストリート」に出演した女優のサラ・ランカシャーも出てる。彼女はたくさんのテレビ番組に出てるよね。ネイサン・デトロイト役はナイジェル・リンジー、サラ・ブラウン役はジェンナ・ラッセル。ジェンナは昨年ユアン・マグレガーがスカイ・マスターソン役、ジェーン・クラコフスキーがアデレード役で開幕した時のオリジナルキャストなんだ。で、僕はオーディションを受けた。マイケルとジェイ、それにアソシエイト・ディレクターのジェイミーとも一緒に、とても楽しかった。マイケルは他にもリハーサル中だったから、僕らのリハーサルは大抵の場合ジェイミーが担当することになった。振付助手のスペンサー・ソロマンも、数年前フェスティバル・ホールで「オン・ユア・

トウズ」を公演したとき振付助手をしてくれたから知っていたしね。顔なじみが大勢いて、いいよ。

僕がオファーを受けたのはスカイ・マスターソン役。素晴らしい作品だから大変な名誉だった。サラと僕が劇場で観た夜、二人とも本当に楽しんだから、出演できるなんてすごいことだよ。毎晩素晴らしい旅をしているみたいなんだ。それに「グランド・ホテル」出演者も何人かいるから、再会が嬉しい。マーティン・エリス、ジョン・コンロイ、素晴らしいキャスト揃いさ。僕の相手役はケリー・プライス。去年のオリジナルキャストで、ジェンナ・ラッセルの代役兼アンサンプルで出演していた。ところが初回プレビューの時、ジェンナが病気になったので、ケリーはユアン・マクレガーの相手役を務めることになった。そこで明らかにお歴々に感銘を与えたから、今度この役をオファーされたんだよね。すごいよ。素晴らしい共演者だし、一緒にいて面白いんだ。他の主役二人は、同じくテレビスターのニール・モリジーと、偉大なパフォーマー サリー・アン・トリプレット。サリーは膨大な数のミュージカルに出演してる。見ていても素晴らしいし、一緒に舞台に立つと勉強になるんだ。僕のからみはほとんどがケリーとなので、サリーやニールとからむことはあまりないけれど、彼らがこの作品に出演してくれていることが素晴らしい。公演成績も上々だしね。僕は目下6週目に入ったところで、8月までの出演予定。好調にロングランが続いていて、素晴らしいよ。言ったように、今は本当に楽しくやっている。先はかなり長いけど、この気持ちが8月まで続くといいなと思っているんだ。でも舞台でまたミュージカルをやれるなんて、嬉しいよ。作品も僕も、いい評価をもらっている。踊りはあまり無いけど、舞台でまた歌うのは本当に楽しいんだ。いつも違うことをやられて、本当にいいよ。僕にはこの作品よりも、もっと踊って欲しいと思っている人も中にはいるだろうけど。実のところ歌と演技により集中できて、以前自分が出演したミュージカルのように人の心配をする必要が無いって、いいことだよ。自分自身に集中できて、本当にいいんだ。

そう、万事順調なんだ。あと何か、今後のことでみんなに話すことがあるかなあ。来年「危険」ツアーをしようとしていること、前に話したよね。レズと僕は、僕のカンパニーのために別のアイデアもいくつか考えている。たくさん浮かんでいて、どう展開していくか様子見、ってところなんだ。素晴らしいよね。

とにかく、みんな支持してくれてありがとう。ウェブサイトのカレンダーも売れ行き好調だと思うから、カレンとジェインにお礼を言いたい。それに買ってくれたみんなにも、お礼を言うね。僕らはもう来年版について話し合っているんだよ。みんな元気でね。できたらピカデリー・シアターで、それがダメならどこかで、みんなに会えるといいな。

じゃあ、さよなら。

アダム

XX